

私の地域活動と社会活動

2024年3月26日
東大IOG産学連携PJ会議

一般社団法人ディレクトフォース
地域デザイン総合研究所会長
昭和女子大名誉理事

平尾 光司

A. 私の地域活動—地域活動 20年の体験

I 問題意識

- ・ 高齢者にとって社会貢献の大きな分野は地域活動である。
(身体的・経済的な制約から広域活動は制限される)
- ・ 地域密着的な活動は地縁・人縁というソーシャルキャピタルを豊かにする。
健康増進にも役立つ、地域活性化に貢献する。
東京都健康長寿医療センター「健康長寿ガイドライン・エビデンスブック」
- ・ DFの健康医療研究会のアンケート調査結果
健康チェック項目（食生活、体力、社会参加）はいずれも好結果。しかし地域活動への参加度の低さが目立つ。DF会員だけでなく一般的傾向

II 鎌倉市における地域活動の自分史

1. 鎌倉市の課題

- ・ 人口の高齢化の進展 高齢化率 30.6%（全国 26.6%）2045年予測（40.8%）
- ・ 開発による自然環境の破壊 大規模開発からミニ乱開発
- ・ オーバーツーリズム（年間観光客 2000万人超）、住民の生活環境悪化
- ・ 雇用の減少（地場企業の移転、工場移転・閉鎖）
- ・ 市財政の悪化 高齢者医療・介護負担増、交付団体へ転落の危機、高所得通勤者の退職増による住民税の減収
- ・ 市民の地域活動は活発 383団体（鎌倉市市民活動センター登録団体のみ）

1. 1970年代 1971年東京から鎌倉市寺分に転居

- ・ 東京から鎌倉に移住して団地内のメイン道路の通り抜け交通の激増
(鎌倉から大船への抜け道、一日5000台、排気ガス、交通事故、騒音が深刻化)
- ・ 沿道住民で「交通問題を考える会」結成。
- ・ 鎌倉市・警察署に交通量調査をベースに交通規制・道路安全対策を要望
- ・ 成果
 1. 登・下校時の車両進入禁止
 2. メイン道路にガードレール設置
 3. 住民の地域意識の高まり
 4. 団地の隣接緑地の中央公園建設の市のバブル的開発構想－レジャーランド的開発に住民が歯止めをかける運動の母体が形成。現在の鎌倉自然公園建設に成功。
自治会の結成、会館建設
教訓、女性（家庭主婦）パワーの素晴らしさ、自治体、警察との対話

2. 1990年代 台峰緑地保存運動に参加

北鎌倉の鎌倉3大緑地の一つ台峰の宅地開発の動き阻止

・活動の内容

- (1) 台峰の生態系の観察調査・生態系の貴重さをアピール
- (2) 台峰を歩く会で市民啓蒙、
- (3) 遊歩道の整備（会員奉仕活動）
- (4) 緑地保存のためナショナル・トラスト（開発用地の一部買取）
- (5) 「台峰を守る会」、月1回現地調査（自然観察会）、遊歩道の整備作業
- (6) 活動資金のため地ビール（北鎌倉の恵み）、カレンダー発売、バザー開催

・活動成果

- (1) 住宅地開発を阻止、鎌倉市都市・自然公園に（2021年4月全面開園）
- (2) NPO「北鎌倉の景観を守る景観を後世に伝える基金」設立、代表なだいなだ氏
- (3) 台峰保全から北鎌倉地域の歴史的景観保全へ→北鎌倉の景観を守る会の活動
- (4) 希少種の保護・生物の多様性確保（ホタル、マツムシ等の復活）
- (5) 鎌倉市に土地取得費用の一部寄付
- (6) 2021年目的達成してNPO解散、今後は任意団体として活動

3. 如水会（一橋大学同窓会）鎌倉支部長（2010－2015年）

支部活動の活性化― ゴルフ、麻雀、囲碁など会員親睦中心の支部活動を改革

活動目的の明確化― 1. 会員親睦 2. 母校支援 3. 地域貢献

- （1） 鎌倉如水会サロン創設、大学の若手研究者を招待・研究テーマ報告、
- （2） 近隣支部との交流→逗子・葉山支部と合併
- （3） 留学生の鎌倉招待（円覚寺、大仏など寺社観光、茶道体験―東慶寺）
- （4） 神奈川フィル、コンサートマスター、石田建長寺コンサート開催4回で収益。
母校に寄付（大学学長より感謝状）
- （5） 地域貢献―市民向けに神奈川フィル、コンサートマスター石田孝尚の建長寺
コンサート開催、収益を母校、神奈川フィルに寄付

4. 地域の神社・鎮守の森の再興（葛原が岡神社崇敬会－葛の会）

2008年創設、2018年会長就任

- (1) 目的：鎌倉山所在の葛原が岡神社の環境整備、参拝者へのおもてなしと地域住民の交流（鎮守の森の復活）、新しい観光地の開発（オーバーツーリズム対策）
- (2) 会の組織：任意団体、会員70名、平均年齢76歳、年間活動予算 約100万円、
- (3) 活動—
 - イ. 神社の環境整備、樹木整理、散歩道整備、アジサイ定植（4000本、目標1万本）
さくら植樹（10種類の桜）椿、サザンカなど植樹・手入れ、草刈り、除草
 - ロ. 清掃作業 社殿・境内、参道掃除、（毎週木曜日、延べ600人、毎月第二日曜日、延べ400人）（新年、例大祭用意＝参道の提灯飾りつけ、ご神灯設置
 - ハ. 参拝者・観光客へのおもてなし1（参拝客・ハイカーの休息場所－こもれび広場の整備、手作りのベンチ、テーブル・椅子 100席、樹木伐採、枝払い
 - ニ. 参拝客へのおもてなし2、
新年餅つき大会、お茶席、春秋のシーズンには玉こんにゃく、甘酒、ビールなど販売（ご婦人グループなでしこ会、売上が葛の会の活動資金になる。
 - ホ. 会員親睦
 - ・文化祭 秋の文化の日前後3日間、各種のパフォーマンス（ジャズ、ラテン、コーラス、日本舞踊、子ども太鼓など）写真展、俳句祭りなども開催
 - ・木曜会、月例会の作業後の懇親昼食会、境内の山菜、たけのこ、椎茸、会員の農地の野菜を材料として会員のシェフ中心に調理

4. 地域の神社・鎮守の森の再興（葛原が岡神社崇敬会－葛の会） 続

（4）活動成果

- イ. 鎮守の森の復活、環境整備（景観改善、自然環境の回復、最新式公衆トイレの設置—鎌倉市役所に要望実現）
- ロ. 地域住民の交流の活性化、ラジオ体操会
- ハ. 参拝者・訪問者の急増（12年間で20－30倍）
- ニ. 鎌倉の新しい観光名所 北鎌倉－大仏をむすぶハイキングコースの拠点、鎌倉古道の中心点、アジサイ神社のブランド化
- ホ. 神社経営の改善（収入大幅増加、職員1名から5名に増員）
- ヘ. アジサイを染料にしたファッショングッズ—Tシャツなど,Dope& Drucker,鎌倉特産品指定
- ト. 会員の健康増進、12年間で物故者なし、最高齢会員90歳

（5）成功の要因

- イ. 地域の住民が中核メンバー、シニア世代が中心、家族も参加
- ロ. 活動参加が楽しく、面白く、成果が見えること
- ハ. 多様な人生経験、キャリア、専門能力の持ち寄り、現役時代の背番号外す、女性会員のパワー発揮（季節のおもてなし—玉こんにゃく等）
- ニ. 組織の運営が透明で民主的であること（会員総会、役員会、会計報告）
- ホ. 活動参加に健康・体力に無理がないように自己管理
- ヘ. 自主財源の確保、女性会員による売店の売り上げと会費収入

4. 地域の神社・鎮守の森の再興（葛原が岡神社崇敬会－葛の会）続 その他の活動

（6）今後の課題

- イ. 会員の高齢化（平均年齢66歳から76歳へ）
- ロ. 次世代、女性会員の増強
- ハ. 神社との連携、神社の責任役員（氏子代表に就任 2023年）
- ニ. 市内の他団体との連携（由比ガ浜商店街、地元町内会）
- ホ. コロナ禍の中での活動制約（集団奉仕活動の自粛、売店収入激減）

5. その他の地域活動

- （1）野村総研跡地（5万坪）の利活用プロジェクトへの参加、地域住民に要望を実現
- （2）鎌倉三日会－70年の歴史のある鎌倉市への市民の政策提言団体、会報編集委員
- （3）鎌倉山桜を守る会（緑地の孟宗だけ伐採－腱鞘炎のため自分は活動中止）
- （4）ディレクトフォース鎌倉支部創設（2021年）
 - 鎌倉街歩き→観光スポットの開発 3回実施、
 - 支部会員2名の鎌倉観光ガイド一級チャレンジ
 - 古民家のコンサート企画、参加

私の社会活動(1)

1. ディレクトフォース関連

23年前に一般社団法人ディレクトフォース設立に参加
高齢者の社会参加のプラットフォームを目指す組織
社会貢献、教育支援、中小・ベンチャー支援、地域貢献、会員の自己啓発を
柱に活動

地域デザイン総合研究所会長

所属部会：観光立国研究会、健康医療研究会、映画研究会（映愛会）、
日本酒文化研究会、俳句会（泥風句会）、渋沢栄一研究会、
地域デザイン研究会、教育問題研究会、戦争と昭和を語り継ぐ会

2. 学会関連

日本ベンチャー学会（顧問理事）、昭和女子大名誉理事、同大学現代ビジネス
研究所研究員、専修大学社会科学研究所研究参与

私の社会活動(2)

3. 地域活動（鎌倉市以外）

公財 川崎市国際交流協会会長、川崎市産業振興財団顧問、
川崎市臨海部ビジョン検討委員、横浜市山下埠頭再活用検討会議委員

4. その他

安田奨学財団理事、奨学生選考委員、
一般財団法人 日本動産鑑定協会顧問

私の健康法

以上の諸活動を支えるのは「健康」であるとの考えから以下の「ファイブワズ」健康法を日々実践している

- 1万 : 1日のウォーキングの目標歩数 正しい姿勢で大股で歩く、負荷をかけるために緩い坂道も散歩コースに組み入れる
- 1000 : 1日に1000の文字の文章を書く。 日記、手紙、メール、エッセー等文章を日本語か英語で書くことにしている
- 100 : 1日に腹式呼吸を100回、3秒で深く息を吸い、10秒かけてゆっくりと吐く
- 10 : 一日に10人の人と会って会話をする。コロナで外出自粛の時はリアルで10人に会うのは難しく、オンラインでの会議で会う人もカウントすることになっていた
- 1 : 最後の**1**は一日一回大笑いすること。「一笑一若」、一回大笑いすると寿命が一年延びるといふ。これが一番難しい。大笑いするような面白いことが無かった日はベッドで志ん生、文楽などお気に入りの名人のCDを聴いて大声で笑って寝入る。最近ではDFのセミナーで教わった高田佳子先生の「笑いヨガ」を風呂の中で実践している

ご清聴ありがとうございました